

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520377

研究課題名(和文)パスカルの人間学およびその起源と影響の研究

研究課題名(英文)Studies on Pascal's anthropology, its origins and influences

研究代表者

山上 浩嗣 (YAMAJO, Hirotsugu)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：40313176

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、パスカルにおける「無知」の主題の分析を通じて、彼の人間学が、他者および神への愛(慈愛)の尊重に至ることを明らかにした。第二に、モンテーニュによるパスカルの思想への影響に関する研究の一環として、『エッセー』における「人間の尊厳」「判断」「気をそらすこと」という観念について検討した。第三に、ラ・ボエシ『自発的隷従論』の翻訳書を刊行するとともに、本作における「友愛」観念がギリシア=ラテン的伝統とキリスト教的伝統の二重の背景によって成り立つことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：First, through the analysis of the concept of 'ignorance' in Pascal, I demonstrated that his anthropology amounts to confirm the importance of 'charity', love for others and love for God. Second, to study Montaigne's influence on Pascal, I considered several important themes in "Essays", such as human dignity, the judgment or diversion. Third, I published the Japanese translation of La Boetie's "Discourse on Voluntary Servitude", then I noticed that the concept of 'friendship' (amitie) in this treatise has two different origins: Greek and Christian.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：『パンセ』 無知 モンテーニュ 『エッセー』 ラ・ボエシ 『自発的隷従論』 慈愛 友愛

## 1. 研究開始当初の背景

ブлез・パスカル(1623-1662年)の活動は多分野に及ぶ。「キリスト教護教論」なる未完の著作の準備メモを収める遺稿集『パンセ』には、犀利かつ具体的な人間観察、神学的考察、哲学批判、政治論・共同体論、そして修辞論・文体論までもが含まれている。本研究課題の言う「人間学」とは、このような多様な活動の総体を指示する(パスカルは『パンセ』の一断章で、自身の目標を若年時に専心した科学研究と対置して「人間の研究」と位置づけている)。申請者はこれまで、パスカルの「身体」(corps)という多義的な概念の検討を通じて、彼の人間学において人間の此岸的生のもつ意義について研究を行い、2010年2月、その成果によってパリ＝ソルボンヌ大学から博士号を授与された。この研究によって申請者は、原罪による人間の本性の墮落、救済の他力性を強調するパスカルの悲観主義的側面とは異なる、いわばユマニスト的な一面に光を当てることができたと考えている。「賭け」の断章などにうかがわれる彼岸への志向性一方で、パスカルは人間の「身体」を伴う地上の生の理想のあり方を説いていると言えるのである。

しかし、長年に及ぶ上記研究の過程で、申請者が今後取り組むべき課題も明らかになってきた。世界のパスカル研究はこの十数年の間に飛躍的な進歩を遂げた。そのような新たな研究の主たる方向性は、パスカル人間学の総合的再構築のための『パンセ』草稿資料の活用(D・デコットの『パンセ』草稿画像電子化の試み [現在進展中]、L・シュジーニ『パスカルのエクリチュール』2006年)、

パスカルの思想とルネサンス思想との関連の探究(H・ミション『<心の秩序>—パスカル「パンセ」における哲学、神学、神秘思想』1996年)、ジャンセニスム運動およびポール＝ロワイヤルの歴史と思想の研究(ポール＝ロワイヤル学会機関誌『ポール＝ロワイヤル年報』、J・ルソニエ/A・マッケンナ監修『ポール＝ロワイヤル大辞典』2004年、御園敬介『ジャンセニスムと反ジャンセニスム—近世フランスにおける宗教と政治』2009年 [クレルモン＝フェラン第二大学博士論文])、にある。申請者は、自身の研究の過程でこうした新たな動向の成果から多大な恩恵を得たが、それらの研究が扱う問題系にみずから積極的に取り組むことはできなかった。

博士論文を終えたことでこれまでの研究に一段落を見た今、申請者の次の課題は、上述の三つの方向性に即した作業に着手することである。

前記の三つの方向性は、本研究課題における次の三要素にそれぞれ対応している。すな

わち、1)パスカルの人間学を、草稿資料をも用いて、彼自身のテキストに即して総合的に観察すること、2)パスカルの人間学の「起源」の局面を、とりわけモンテーニュからの影響を通じて検討すること、3)パスカルの人間学の「影響」の諸相を、同時代およびやや後年の著者たちの思想との比較を通じて考察すること、である。

## 2. 研究の目的

本研究課題「パスカルの人間学およびその起源と影響の研究」は、1)パスカルの人間学を、草稿資料をも用いて、彼自身のテキストに即して総合的に観察すること、2)パスカルの人間学の「起源」の局面を、とりわけモンテーニュからの影響を通じて検討すること、3)パスカルの人間学の「影響」の諸相を、同時代およびやや後年の著者たちの思想との比較を通じて考察すること、を主たる目的とする。これら三つの方向性は、近年飛躍的に発展してきたパスカルおよびポール＝ロワイヤル研究の動向に対応している。伝統的な研究主題に対して新たな知見と方法を適用することで、多角的にパスカル文献学の進展を図るものである。

## 3. 研究の方法

主として以下の三つの方向性に基づき、三年間の予定で本研究を行う。1)パスカルの草稿資料をも用いて、申請者の博士論文の日本語版研究書を執筆し、パスカルの「無知」および「時間」観念についての論考を発表する。2)パスカルに対するモンテーニュからの影響を実証的に検証することで、両者の此岸的生に対する価値づけの違いについて考察する。3)パスカルの修辞論および政治理論を、それぞれ同時代の重要著作『ポール＝ロワイヤル論理学』および『テレマコスの冒険』との比較において検証する前段階として、これら二著の翻訳に取り組む。上記研究の遂行のため、フランスでの文献調査を定期的に行う。また、研究成果を適宜研究雑誌や国内外の研究会・シンポジウムにおいて発表する。

## 4. 研究成果

本研究課題の三つの主要な方向性は、1)パスカル人間学の総合的研究、2)パスカル人間学の「起源」の研究、3)パスカル人間学の「影響」の研究である。以下、項目別に記す。

### 1) パスカルの人間学の総合的研究

博士論文(フランス語)の刊行  
2010年2月に審査を経た私の博士論文 *Pascal et la vie terrestre. Epistémologie, ontologie et axiologie du « corps » dans son apologétique* (パリ＝ソルボンヌ大学)に若干の加筆修正を施したものを、『大阪大学文

学研究科紀要』52号 モノグラフ篇として刊行した(2012年3月)

論文「パスカルにおける「無知」の問題」(『大阪大学文学研究科紀要』53号、2013年3月)

パスカルは主として『パンセ』において、人間の無知を「正義」「学問」「死後の運命」という三つの領域に認めている。それぞれの「無知」の分析を通じて、パスカルが最終的に、自己の利己的な欲望の抑制と、他者および超越者への愛という道徳を説いていることを明らかにした。

博士論文日本語版『パスカルと身体の生』の刊行準備

前掲博士論文の日本語版の執筆に取り組んだ。それに際し、大阪大学文学研究科における私の授業「フランス文学講義」(講義題目「ブレース・パスカルの思想—<身体>の両義性」、2013年度1・2学期)における受講生との対話はきわめて有益であった。なお、本書は2014年秋に刊行予定である。

## 2) パスカル人間学の「起源」の研究

エティエンヌ・ラ・ボエシ『自発的隷従論』の翻訳書の刊行(西谷修監修、山上浩嗣訳、ちくま学芸文庫、2013年11月)

パスカルに多大な思想上の影響を与えたモンテーニュの親友であったラ・ボエシの『自発的隷従論』は、パスカルの「自然」「習慣」「圧政」観念の理解にきわめて有益な内容を含んでいる。本論の訳に詳細な注と解説を付し、刊行した。

論文「ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相」(『待兼山論叢』47号、2013年12月)

ラ・ボエシ『自発的隷従論』に現れる「友愛」(amitié)が「自然の友愛」「偽の友愛」「聖なる友愛」の三つの異なった側面をもつことを指摘し、この観念がギリシア=ラテン的伝統とキリスト教的伝統の二重の背景によって成り立つことを明らかにした。パスカルの「愛」の観念の多義性(charité, concupiscence, amour-propre)にも通じる。

モンテーニュ『エッセ』の研究

モンテーニュ『エッセ』の読解を通じて、モンテーニュのイ)「人間の尊厳」の観念、ロ)書物と旅を通じて形成される「判断」の観念、ハ)旅と「気をそらすこと」との関係の解明に取り組んだ。その際、パスカルの思想との比較をつねに念頭に置いた。その成果をそれぞれ以下の研究発表において披露した。「パスカルにおける人間の尊厳」(第48回ラブレール・モンテーニュ研究フォーラム、神戸大学六甲キャンパス、2012年10月)、「モンテーニュのパイディア—書物と旅による「判断」の形成」(平成24年度大阪大学文学研究科共同研究「ヨーロッパ文化としてのグランドツアー」研究会、北海学園大学、2013年3月)、「モンテーニュの旅と「気をそらすこと」」(平成25年度大阪大学文学研究科共同研究

「西欧近代における旅と風景のディスクール」研究会、北海学園大学、2014年3月)

## 3) パスカル人間学の「影響」の研究

論文「一七世紀パリにおける宗教と政治—ジャンセニズムとパスカル」(『境界域からみる西洋世界—文化的ボーダーランドとマージナリティ』田中きく代・中井義明ほか編著、ミネルヴァ書房、2012年3月)

本論文において、まずはフランス17世紀における王権の国家主義的政策を考察し、次に、国内の宗教的統一を実現するために講じられた「異端」とりわけジャンセニズムに対する弾圧の経緯を概観し、最後に、パスカルの政治論に基づいて、政治と宗教という異なる原理の両立という困難な課題について検討した。

『ポール=ロワイヤル論理学』研究

本研究は、この3年間でほんのわずかしか進めることができなかった。次の科研費基盤研究Cの研究課題「パスカルとモンテーニュの人間学および『ポール=ロワイヤル論理学』の研究」(平成26年4月~28年3月)にて集中的に取り組みたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

- 1) 【口頭発表】「モンテーニュの旅と「気をそらすこと」」、山上浩嗣、平成25年度大阪大学文学研究科共同研究「西欧近代における旅と風景のディスクール」研究会、北海学園大学、2014年3月4日。
- 2) 【論文】「ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相」、山上浩嗣、『待兼山論叢』(大阪大学大学院文学研究科)第47号、2013年12月、査読なし。
- 3) 【翻訳】エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ『自発的隷従論』西谷修監修、山上浩嗣訳、ちくま学芸文庫、256p.、2013年11月。
- 4) 【口頭発表】「パスカルと此岸の生—「病」の象徴的価値と身体性の両義性」、山上浩嗣、パスカル研究会第150回例会、国際基督教大学、2013年6月1日。
- 5) 【論文】「パスカルと三つの無知」、山上浩嗣、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第53号、pp. 67-104、2013年3月、査読なし。
- 6) 【口頭発表】「パスカルと三つの無知」、山上浩嗣、パスカル没後350年記念シンポジウム、山上浩嗣・武田裕紀共同開催、大阪大学豊中キャンパス、2013年3月24日。
- 7) 【口頭発表】「モンテーニュのパイディア—書物と旅による「判断」の形成」、山上浩嗣、平成24年度大阪大学文学研究科共同研究「ヨーロッパ文化としてのグランドツアー」研究会、北海学園大学、2013年3月5日。
- 8) 【口頭発表】「パスカルと繊細の精神」、山上浩嗣、第72回大阪大学フランス語フランス文学研究会、原亨吉先生追悼シンポジ

- ウム「パスカルと17世紀の科学・哲学」、大阪大学豊中キャンパス、2013年3月2日。
- 9)【口頭発表】「野蛮なる楽園—フランス近代文学にみる文明の自己批判」、山上浩嗣、第124回懐徳堂秋季講座「ヨーロッパ文学入門—ユートピアとディストピア」、大阪大学中之島センター、2012年11月18日。
- 10)【口頭発表】「パスカルにおける人間の尊厳」、山上浩嗣、第48回ラプレー・モンテ—ニュ研究フォーラム、神戸大学六甲キャンパス、2012年10月20日。
- 11)【著書】*Pascal et la vie terrestre. Epistémologie, ontologie et axiologie du « corps » dans son apologétique*, Hirotsugu YAMAJO、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第52巻モノグラフ編、426p.、2012年3月。
- 12)【論文】「一七世紀パリにおける宗教と政治—ジャンセニスムとパスカル」、山上浩嗣、『境界域からみる西洋世界—文化的ポータルランドとマージナリティ』(田中きく代・中井義明ほか編著)、ミネルヴァ書房、pp.133-152、2012年3月。
- 13)【論文】「西洋文学のなかのキリスト教」、山上浩嗣、『西洋文学—理解と鑑賞』(森岡裕一編著)、大阪大学出版会、pp.80-93、2011年10月、査読なし。
- 14)【論文】「古典主義とロマン主義」、山上浩嗣、『西洋文学—理解と鑑賞』(森岡裕一編著)、大阪大学出版会、pp.108-121、2011年10月、査読なし。

〔雑誌論文〕(計2件)

〔学会発表〕(計7件)

〔図書〕(計4件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：

〔その他〕  
 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山上 浩嗣 (YAMAJO, Hirotsugu)  
 大阪大学・大学院文学研究科・准教授  
 研究者番号：40313176

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：